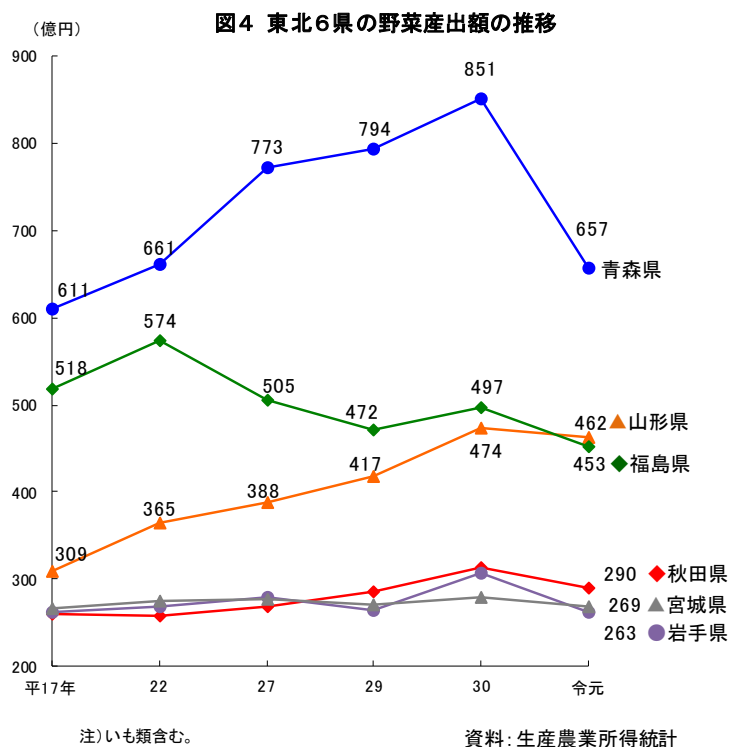
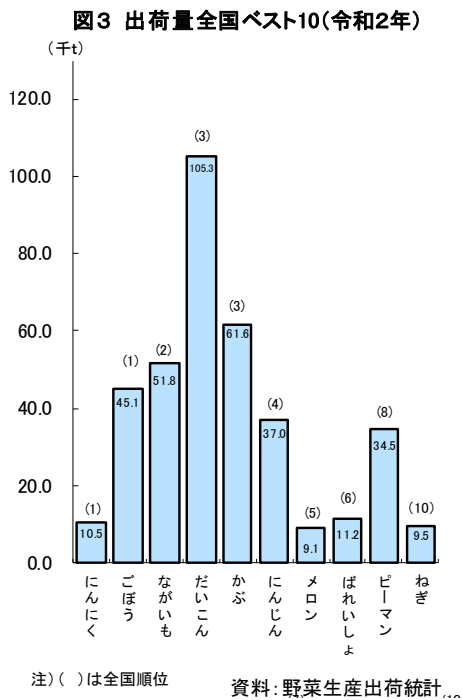
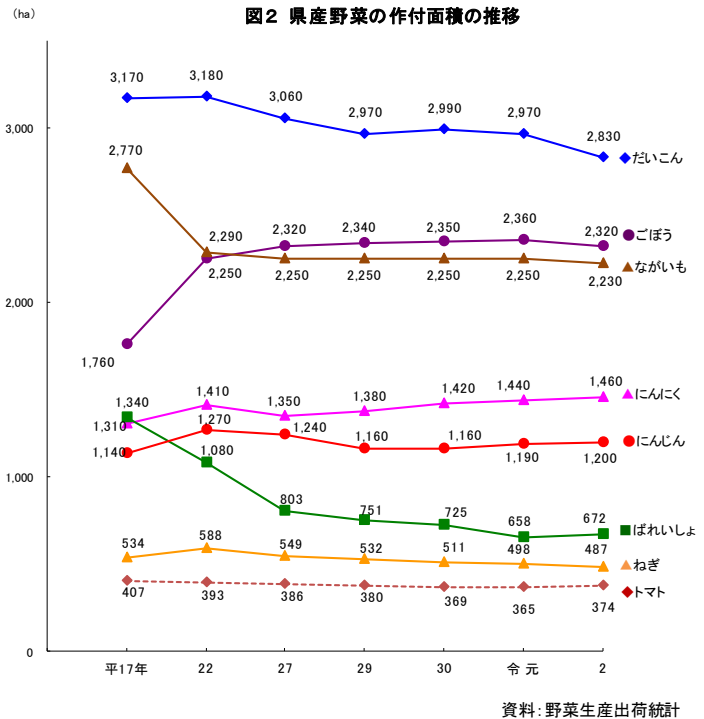
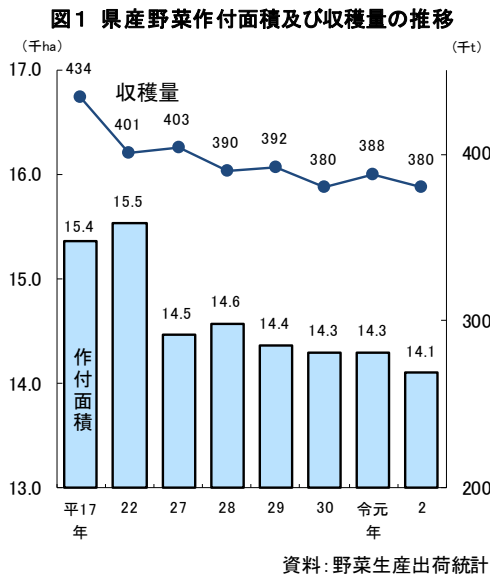


(8) 野菜 (生産)

～産出額は東北1位を堅持～

令和2年の主要野菜作付面積(いも類含む20品目)は1万4,064haで、令和元年より233ha減少した(図1)。品目別では、にんにく、にんじん、ばれいしょ、レタス、えだまめ、トマト、ピーマン及びいちごで増加し、それ以外は横ばいまたは減少となった(図2)。

収穫量は、ごぼう、だいこん、ばれいしょ等で減少した結果、38万98t(前年比98%)とやや減少した(図1)。出荷量を全国順位で見ると、第1位を誇るにんにく、ごぼうをはじめ、10品目が10位以内に入った(図3)。産出額は、657億円(前年比77%)と減少したものの、東北では1位を堅持している(図4)。



(9) 野菜 (流通)

～主力品目は安値で推移～

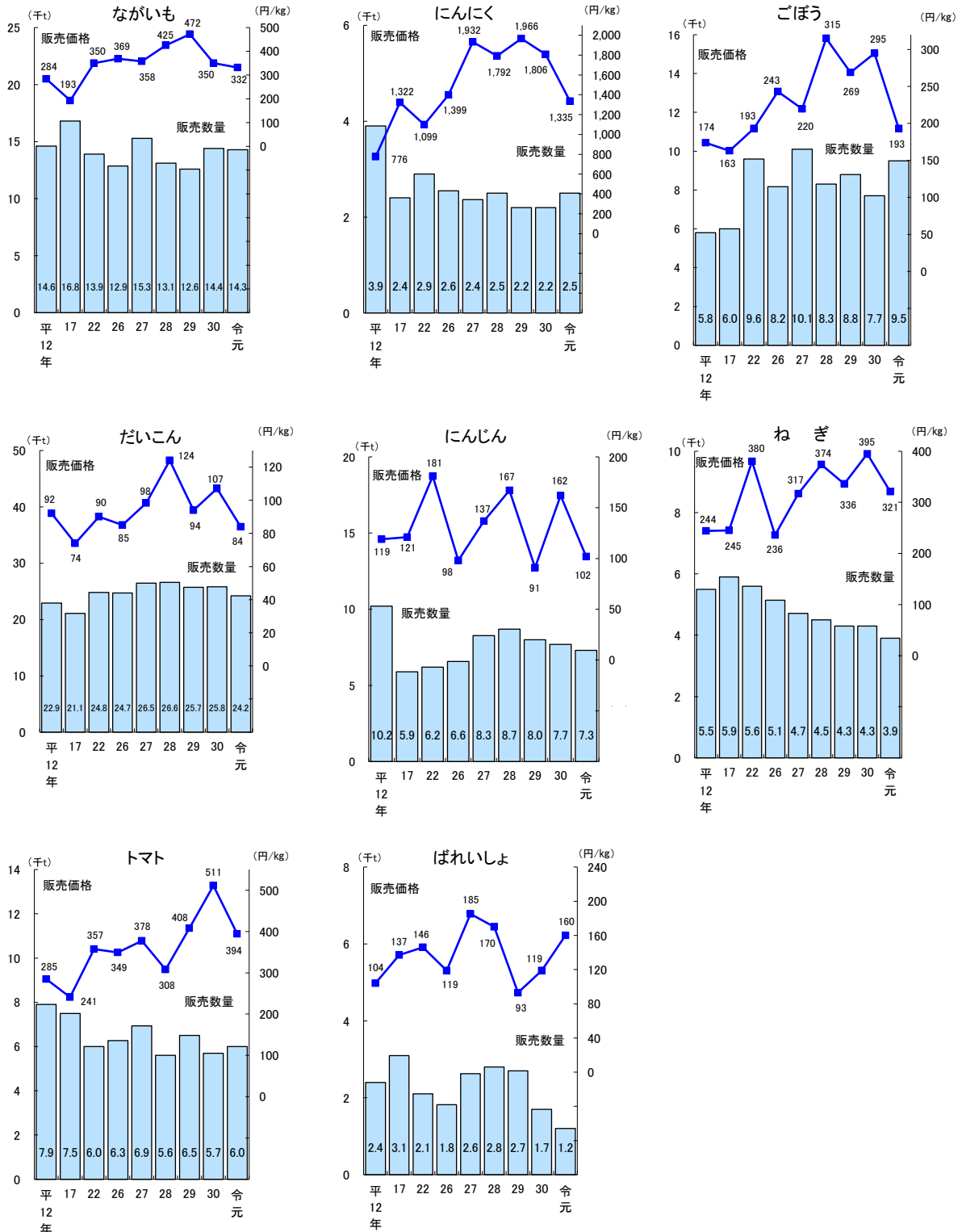
本県主力のながいもの価格は、令和元年は前年比95%の1kg当たり332円であった。

にんにくの価格は、市場への入荷量が前年比115%と増加し、前年比74%の1kg当たり1,335円であった。

ごぼうの価格は、市場への入荷量が123%と増加し、前年比65%の1kg当たり193円であった。

その他の野菜では、だいこん、にんじん、ねぎ、トマトは前年より安値であった。

主要市場における県産主要野菜の価格動向



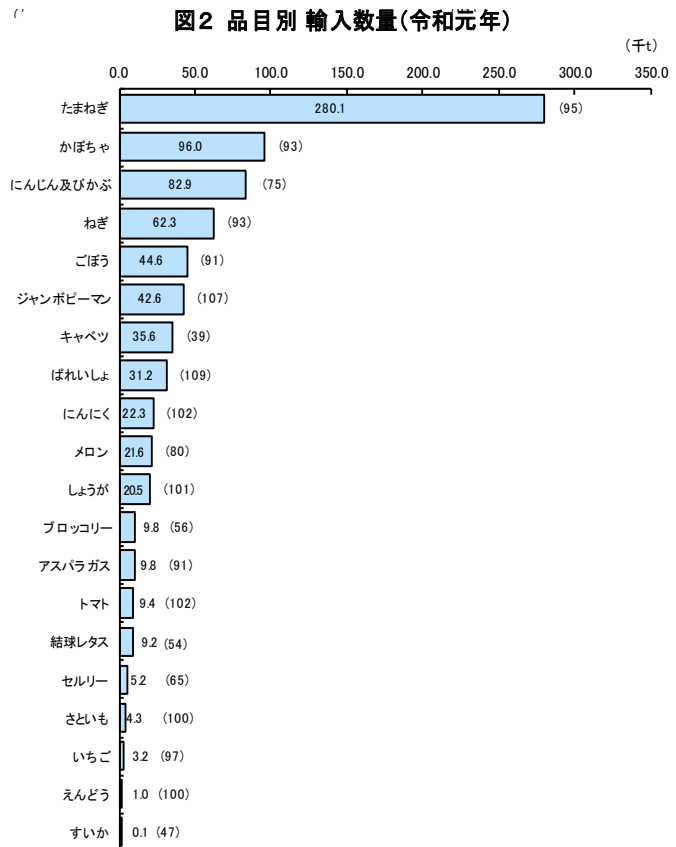
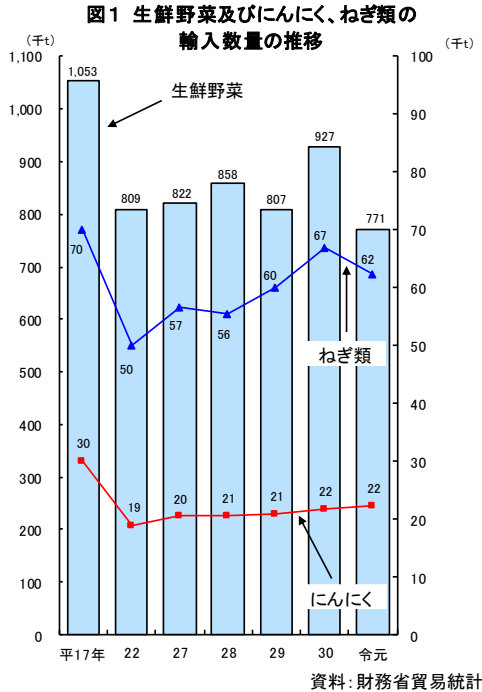
資料：東京、大阪、名古屋市中央卸売市場年報より農産園芸課作成

(10) 野菜 (輸入)

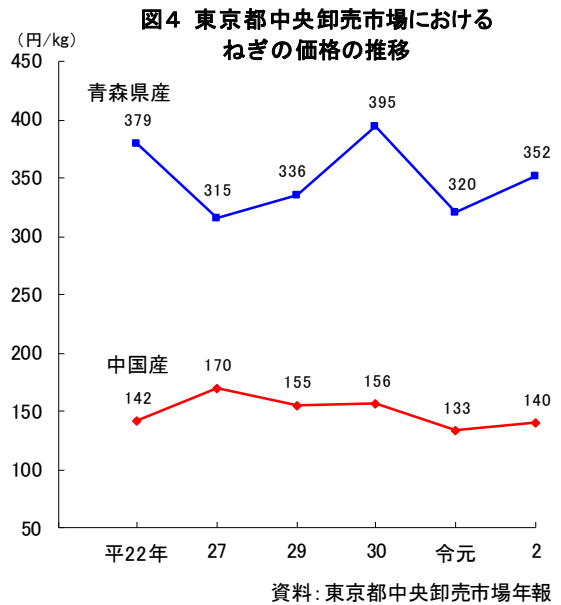
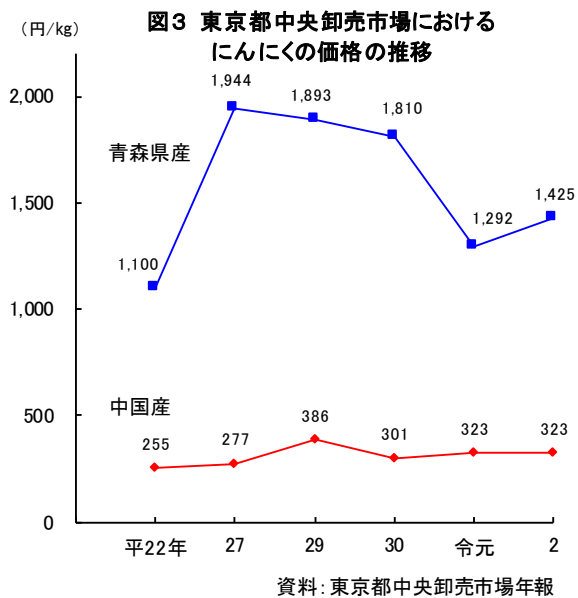
～生鮮野菜の輸入は前年並～

令和元年の生鮮野菜の輸入量は、77万1,078t（前年比83%）と前年より減少した（図1）。

本県に及ぼす影響が大きいニンニクについては、2万2,319t（前年比102%）とほぼ前年並であった（図2）。



注) ()は対前年比(%)



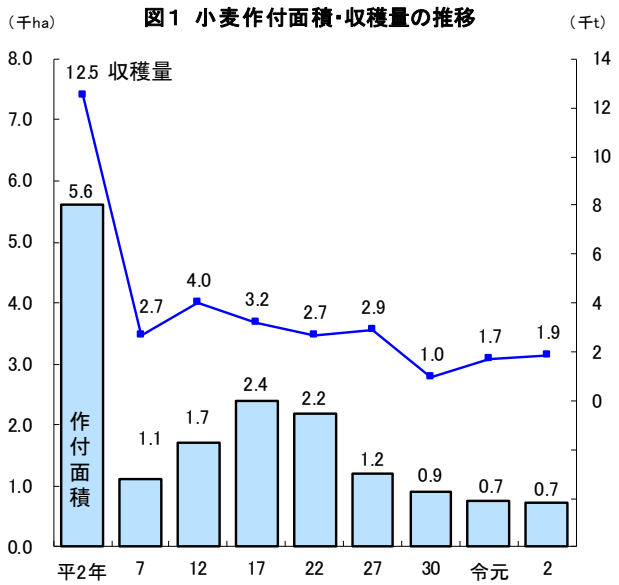
(11) 畑作物 (小麦・大豆の生産)

～収穫量は小麦、大豆ともに減少～

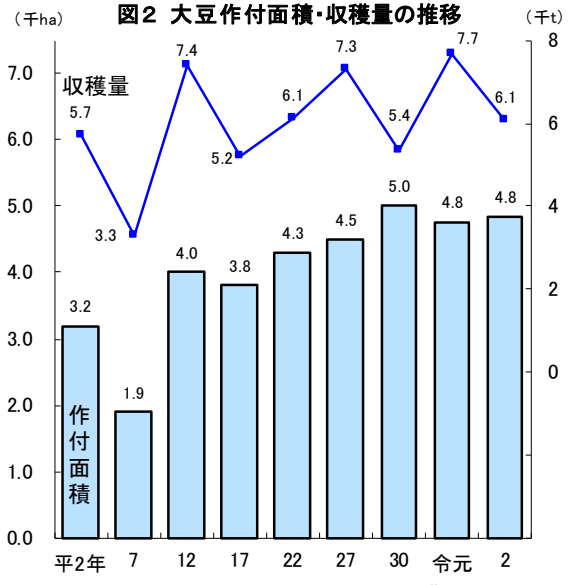
令和2年産の小麦の作付面積は716ha（前年比96%）と減少したが、収穫量は1,870t（同109%）と増加した（図1）。

大豆の作付面積は4,840ha（前年比102%）と増加したが、収穫量は6,050t（同79%）と減少した（図2）。

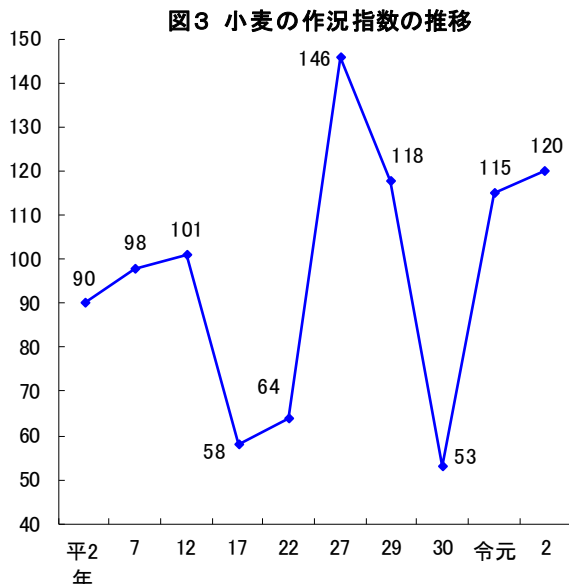
令和元年の産出額は、大豆は11億円（前年比183%）で、小麦は1億円に満たない額となった（図4）。



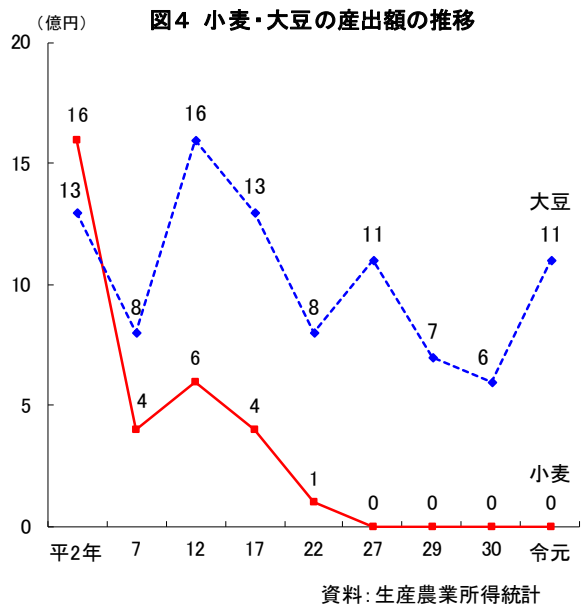
資料：農作物統計



資料：農作物統計



資料：農作物統計、平成17年以降東北農政局調べ



資料：生産農業所得統計

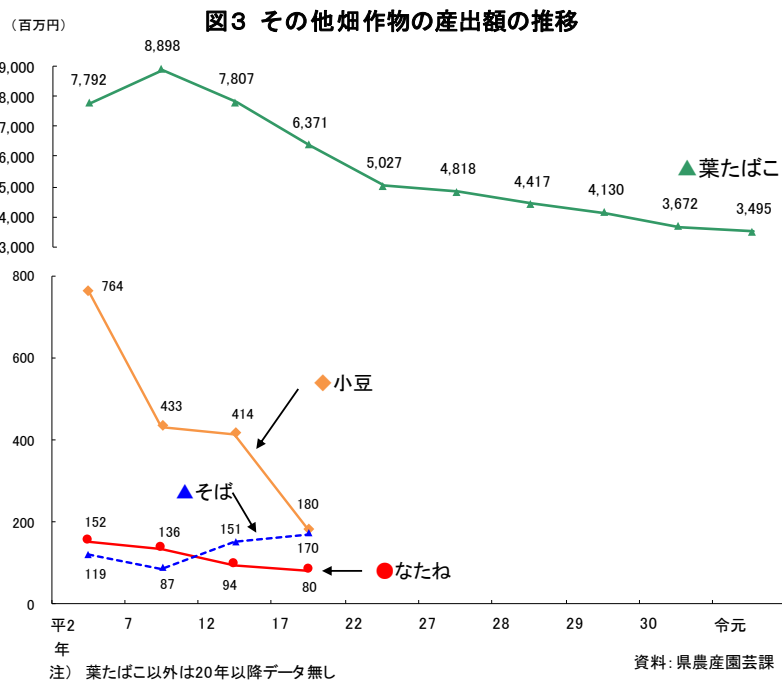
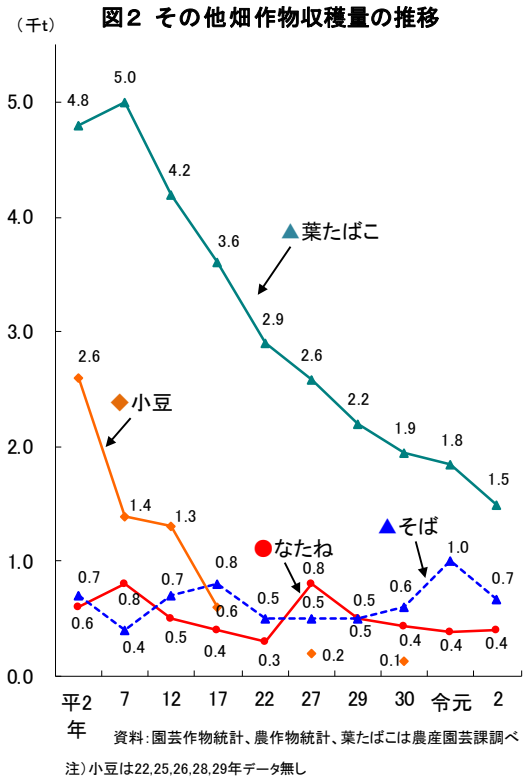
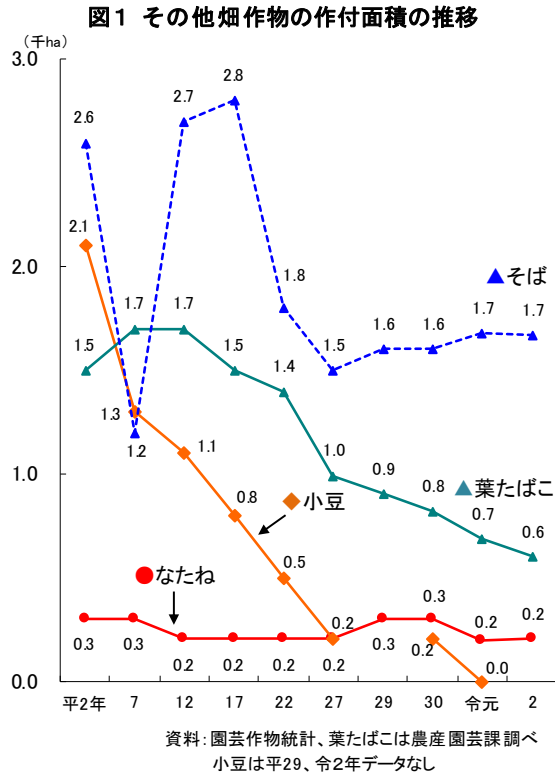
(12) 畑作物 (その他畑作物の生産)

～そば・なたねの作付面積は横ばい、葉たばこの作付面積は減少傾向～

令和2年産の作付面積は、そばが1,670ha(前年比99%)、なたねが202ha(前年比104%)と前年並、葉たばこが635ha(前年比92%)と前年より減少した(図1)。

収穫量は、そばは668t(前年比66%)、葉たばこが1,486t(前年比80%)と減少、なたねが398t(前年比105%)と増加した(図2)。

令和元年の葉たばこの産出額は、34億9,490万円であった(図3)。



(13) 花き (生産と流通)

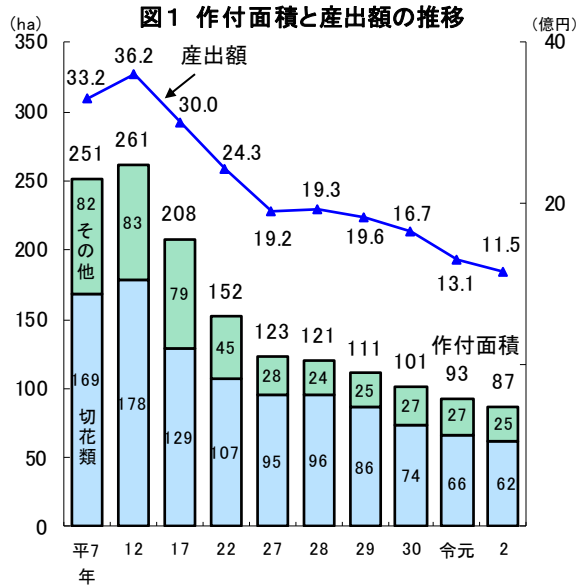
～近年の価格低迷や高齢化等により、作付面積及び産出額は減少傾向～

令和2年の花きの作付面積は87haと前年から6ha減少し、うち切花類が62haで71%を占めた。産出額は11.5億円となり、前年より12%減少した(図1)。

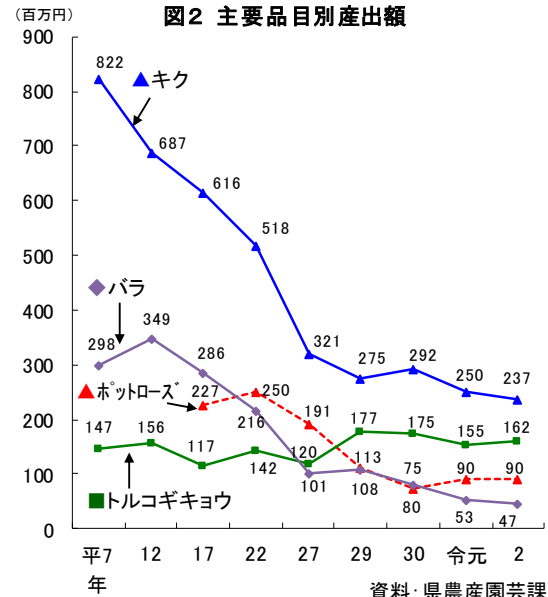
産出額を品目別にみると、キクが2億3,700万円で全体の21%を占め、次いでトルコギキョウが1億6,200万円となった(図2)。

地域別にみると、産出額は中南地域、三八地域が多くなっている(図3)。

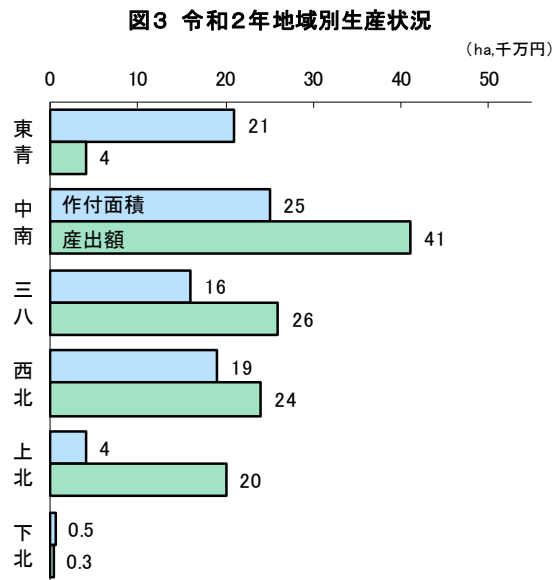
また、令和2年全農青森県本部取扱数量は、619万本と前年を下回った(図4)。



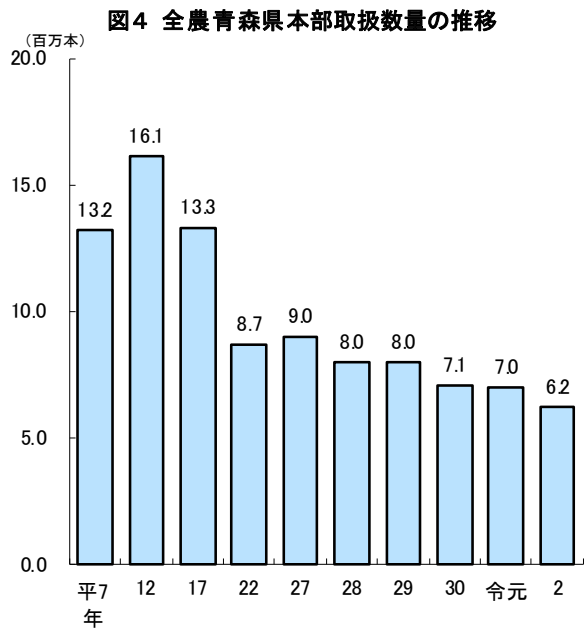
資料: 県農産園芸課



資料: 県農産園芸課



資料: 県農産園芸課



資料: 全農青森県本部

(14) 冬の農業

～品目は多岐にわたる、冬のハウス栽培面積は減少～

令和元年度の冬のハウス栽培面積は、県全体で 56.6ha で、前年よりも 2.0ha 減少した（図1）。作目別では、野菜は 46.9ha で 83% を占め、花きが 9.4ha で 17% となっている（図1）。

栽培品目は多岐にわたっており、ハウス栽培ではいちご、ほうれんそうが多く、露地栽培ではにんじんが多くなっている（図2）。

図1 冬期間のハウス栽培面積

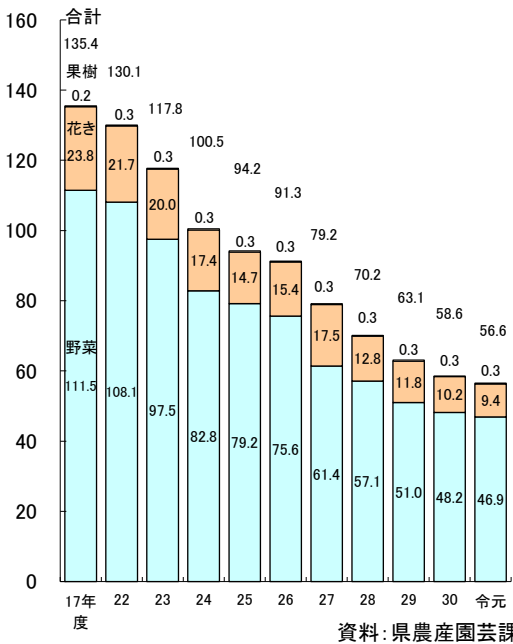


図2 品目別栽培面積(令和元年度)

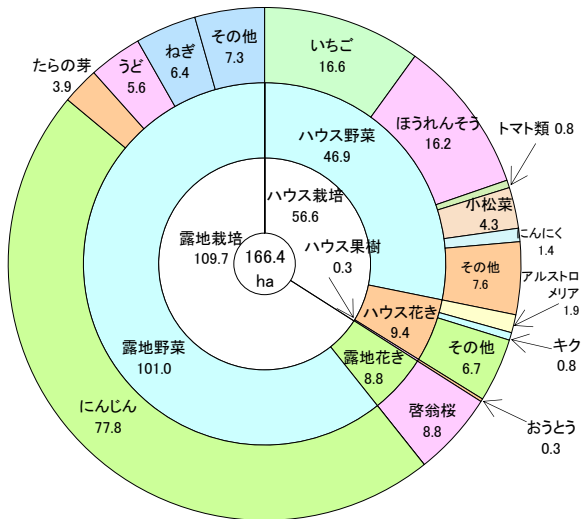


図3 地域別栽培面積(令和元年度)

